

関札の大きさと家格の比例関係について

The Relationship Between Sekihuda Dimensions and family status

菊地 恵 KIKUCHI Megumi

江戸期の宿場に設置された関札とは、大名や公卿など貴人が休泊する際の標識として宿場の出入口や本陣の前に立てられた札のことであるこれまでの研究において、古文書などにより関札の大きさがその大名の家格や身分に比例することが示された。いわゆる家格の高い大名が大きな関札を使用し、逆に家格が低い大名は小さな関札を使用するという通説が立てられている一方で、関札の大きさと家格の具体的な比例関係について関札の実測値を使用しての分析は行われていない。本研究の目的は、過去の研究で指摘された仮説をもとに、関札の大きさと家格の比例関係についての分析を行い、その関係性を明らかにすることである。

1 はじめに

1-1：研究目的と対象資料及び研究方法

江戸期の宿場に設置された「関札(せきふだ)」とは、大名や公卿など貴人が休泊する際の標識として宿場の出入口や本陣の前に立てられた札のことである。一般に右端に小さく日付、中央に筆太で官名、その下に「宿」、「泊」、「休」などの宿場の利用形態が記されている。

これまでの研究において、古文書などにより関札の大きさがその大名の家格や身分に比例することが示された(大島1995)。いわゆる家格の高い大名が大きな関札を使用し、逆に家格が低い大名は小さな関札を使用するという通説が立てられている一方で、関札の大きさと家格の具体的な比例関係について関札の実測値を使用しての分析は行われていない。本研究の目的は、過去の研究で指摘された仮説をもとに、関札の大きさと家格の比例関係についての分析を行い、その関係性を明らかにすることである。

対象資料は、山形県上山市楯下宿の関札54枚に加えて、宿帳によって関札の年代が特定されている滋賀県大垣市墨俣宿の関札37枚と大阪府茨木市郡山宿の関札70枚を取り扱う。本研究では、これまでの研究方法を継承し、関札の文字情報や形態をもとに文献を用いて考察する。具体的には、手塚2018や大垣市2018、梶2016の文献をもとに宿場を利用した大名家を特定し、その家格を調査・比較する。

1-2：先行研究

これまでの研究により、関札の大きさや設置位置が家格や身分に比例することが示された。

まず、大熊喜邦は、大名などの格により関札の設置位置と枚数が異なることを記している(大熊1947)。

これに対し、大島延次郎は大熊の説を否定したのに加え、関札の大きさは禄高によって規定されるという俗説も否定し、身分に応じて各自がその大きさを決め、御三家など禄高の高い者が一般的に大きな関札を使用している傾向があるとした。

また、丸山雍成は草津宿本陣田中家の歴史資料報告書の中で、本陣に残された関札について大福帳を参考に出身地や休泊年を一部割り出している(丸山1997)。さらに、関札の大きさについて「その規模は概ね身分や格式の高い者が大きな札を使い、家臣や妻女などは小形のものを使用している」(丸山1997)と記している。

次に、三世義徳の東海道二川宿の例では、丸山が述べた関札設置位置の通説について「二川宿本陣宿帳」を用いて主に考察している(三世2000)。分析の結果、二川宿において、関札設置位置の大部分は宿場内であり、大大名等の宿泊で下宿数が多く必要ときには東西の間隔が広く取られたことから、関札の設置位置は大名等の下宿数によって規定されるものだと述べている。

手塚由唯は、主に上山市楯下宿の関札を対象に、これまでの研究では注目されてこなかった関札の掛け穴や形状、加工方法を考古学的視点から分析した(手塚2018)。調査の結

果、檐下宿の関札は主に釘で固定されており、穴の開いていない関札については裏に溝をつけ棒を挿していたことを明らかにした。また、石高と関札の大きさの比例関係について、石高が家格を示すわけではなく、関札の大きさが石高に影響されることはないとしている。

これまでの研究において、関札の大きさが家格や身分に比例することが示されたが、その具体的な比例関係についての十分な分析は行われていない。これを踏まえ、本研究では従来の仮説をもとに複数の家系や身分層を対象に、関札の大きさと家格との関係を調査する。

2 関札の分析

2-1：参勤交代と関札

参勤交代は単なる大名統制の手段にとどまらず、近世の幕藩体制における政治や経済の構造を形成する重要な柱であり、社会、交通、文化の各面にも影響を及ぼした(丸山2007)。江戸幕府に対する軍役として開始され、当初は行軍形式をとっていたが、やがて形式的なものに変化して華美を競うようになった。大名行列では、その格式に応じて随行者の人数や持参する道具類が厳密に規定されていた(児玉1999)。

さらに、大名が本陣へ休泊する際は、それに先立って各本陣へ休泊の旨を伝達し、次いで家臣が来宿して関札を渡し、本陣が関札の領収を伝えていた(三世2000)。

先で述べた関札とは、江戸時代に参勤交代の大名などが宿場を利用する際、本陣の門前や宿場の入口・出口に掲げた木製の札である。関札には宿場を利用する日付と官名、「宿」、「泊」、「休」などの大名の宿場利用形態について書かれている。

「宿」、「泊」、「休」の使い分けの基準として、「宿」は食材と料理人を大名側で用意する素泊まりのこと。「泊」は本陣側が賄いを用意する泊まりのこと。「休」は食事を伴う休憩のことを指し、食事を伴わない休憩は「小休」や「寓」などが使われている(手塚2018)。関札は大名側が事前に製作し、休泊の数日前までに宿場に届けられ、本陣で受け取られた。そのため、関札に書かれた官名には「様」や「御」は用いられていないが、宿場本陣側で製作したとみられる関札には尊称が書かれている。また、関札の使い回しはせず、大名が宿場に滞在するたびに新しい関札が使用され、立てた後は玄関の棚などに並べ、関札を藩主の化身として大切に扱った(丸山2001)。

しかし、参勤交代制度が廃止された明治時代以降、関札は不要のものになり、多くの本陣では一部を残し破却され、関札を土蔵の棚板に転用する家もあった(三世2000)。

また、関札は掛札、宿札とも呼ばれることがあるが、宿札・掛札・関札の違いについては、「宿札とは、基本的に木製で青竹等で見上げる高さに掲げる関札、基本的には紙製で木製のものも使用され本陣門前に設置される掛札、さらに下宿札(家老宿札・馬宿札・日用宿札・油守札等)の総称」(三世2000)となっている。本研究では木製の札のみを対象とし、関札のみを取り扱う。

2-2：家格の分析項目について

大名の身分階層は細分化されているが、大名家の家格を分析するにあたり、江戸城殿中における大名の席次である「殿席」と、大名が朝廷からたまわる「官位」、「一門・譜代・外様」の区分と「表高」を主に取り上げ分析する。

殿席とは、大名が將軍の居城である江戸城に登城した際案内される控室のことである。大名の殿席は家ごとに決められており、將軍との親疎や領地の規模と石高、官位など各大名家格によって上から大廊下、溜間、大広間、帝鑑間、柳間、雁間、菊間の7種類のいずれかに案内される。この殿席は大名課役の選定基準にも関与している(松尾1983)。また殿席は多岐にわたる家格表現を総括した包括的な大名類別の基準であり、当時の社会においても殿席の区分が各大名家の属性を公式に示すものとなっていた(笠谷1994)。

次に、大名の基本的な類別である「一門・譜代・外様」と大名家の格式を表す「官位」にも説明する。

一門・譜代・外様の区分として、一門は徳川將軍の一族の大名たちを指すもので、譜代とは豊臣秀吉の支配体制のなかで家康の直属配下の従臣だったもので、それらが江戸時代のなかで1万石以上の大名に取り立てられていったものが譜代大名である。また、外様大名は、豊臣政権時代に徳川氏と同等に豊臣氏に仕えており、徳川家が1603(慶長8)年に將軍に任命されてから、徳川政権に従った大名たちを指す(朝尾1992)。

武家官位は將軍の意向によって任命されるものであるが、江戸幕府はこれを大名や幕府上級役職者の序列を決定し、統制を行うための装置として利用していた。律令官制の名称を使用しているが、叙任の手続きやその性質は従来のものと異なり、実際に機能した近世の武家官位の等級は、中將、少將、侍従、四品、諸大夫の5種である。加えて、同じような性

格を持つ布衣も含まれている。

家格の各項目については、江戸幕藩大名家辞典上、中、下巻と日本史総覧5(近世2)、国史大辞典1～14巻を参考に宿ごとに表を作成した。

3 考察

3-1: 橋下宿

橋下宿の関札全体の平均サイズは縦81.5cm、横21.9cmである。橋下宿の関札の大きさは80cm台のものが多く、最も大きいのは久保田藩佐竹右京大夫の関札で97cmである(手塚2018)。また、佐竹右京大夫の関札のみ裏面に台形の差し込みホゾが刻まれている。大名のほか幕府の巡検使の「榑原佐兵衛御泊」の関札が残っており、尊称が用いられていることから、この関札は宿場本陣側で用意したものと考えられる。また、本研究で取り扱う3つの宿場のうち、橋下宿のみが「寓」という文字が利用形態として使われているが、この寓は「小休」などの小休止の際に使われたとされている(手塚2018)。

橋下宿における関札の大きさは、佐竹氏のように相対的に見て家格に応じた大きな関札を使用する一方で、上杉氏のように家格が高い大名でも、関札がその規模に見合わない場合があることが分かる。さらに、岩城氏や六郷氏のように関札にバラつきが見られる大名家もあり、家格(官位)の変動が関札に影響を与えた可能性も考えられる。

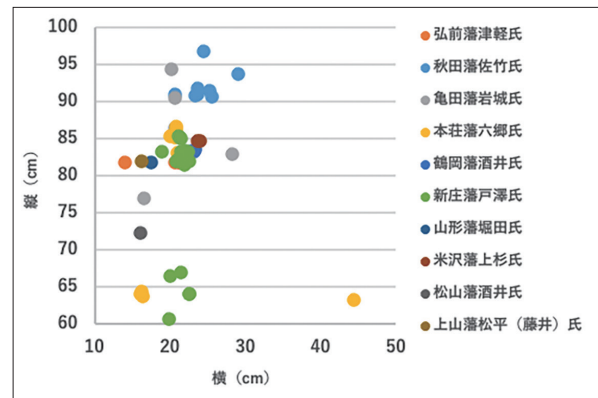
3-2: 墨俣宿

墨俣宿本陣に残された大名の関札は、本陣の宿帳との照合により江戸時代後期の年代が特定できるものが14枚あり、1777(安永6)年から1862(文久2)年まで及ぶ。

墨俣宿の関札の平均は縦97cm、横28cmであり、橋下宿の関札より一回り大きい。墨俣宿は100cm台の関札が多く、最も大きいのは鳥取藩(池田)松平氏の関札で112cm、最も小さいのは佐賀藩(鍋島)松平氏で78.5cmである。

墨俣宿の関札と大名の家格を見ると、家格と関札の大きさは必ずしも比例関係あるわけではないとわかった。熊本藩細川氏のように家格の高い大名であっても、必ずしもその関札が家格に見合った大きさであるとは限らず、実際、関札の大きさには過剰または不足している場合がしばしば見受けられる。

例えば、大広間を使用する外様大名(国主)という高い家



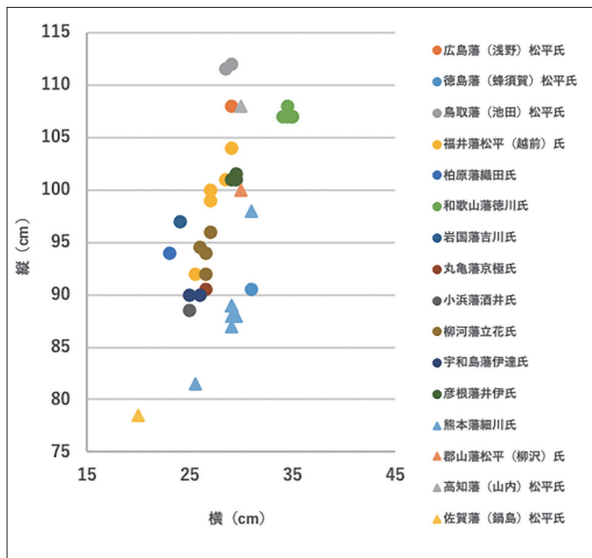


図2 墨俣宿 関札の法量比較

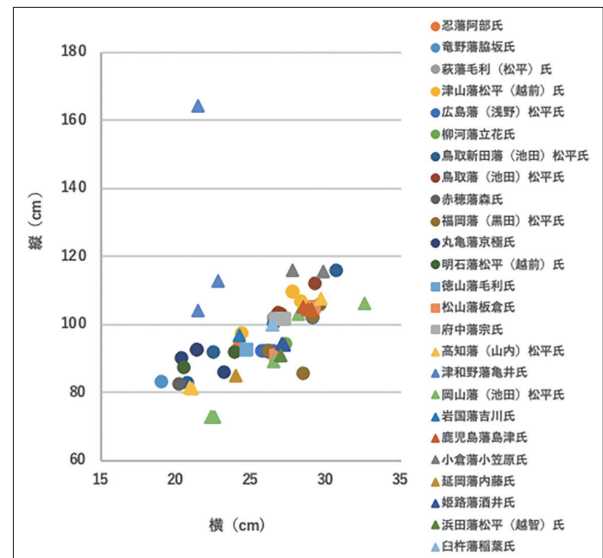


図3 郡山宿 関札の法量比較

接的に関係しておらず、関札の大きさが家格を正確に反映していないことがわかった。

3-4: まとめ

大名の家格と関札の大きさの比例関係について、橋下宿、墨俣宿、郡山宿などの大名が使用した関札を分析することで明らかになった。関札の大きさは家格によって大きさが調整される場合がある一方で、それが必ずしも家格に見合う大きさであるわけではない。

まず、橋下宿の例を挙げると、佐竹氏は表高20万石を有する国主であり、橋下宿を利用した大名の中では数少ない大広間を利用する大名である。その関札の大きさ(縦90.8cm~96.8cm、横20.6cm~29cm)は家格に見合ったものといえるが、同じく家格が高い米沢藩上杉氏は表高15万石の大広間を使用する外様大名であるにもかかわらず、関札の大きさ(縦84.7cm、横23.6cm~24cm)はその規模に対して小さめである。

次に、墨俣宿の関札を見てみると、福岡藩松平(黒田)氏や熊本藩細川氏などの家格が高い国主大名は、大きな関札を使用している。しかし、これらの大名と同じく家格が高い松平(池田)氏や松平(浅野)氏の関札は、徳川家に比べるとやや過剰に大きくなっている。

また、郡山宿での事例を見ても、関札は相対的に考え、家格に見合った適切な大きさが使用されている場合もあるが、やはりその大きさは家格に完全に一致していないことが多い。例えば、郡山藩松平氏などは、家格に見合った標準的な

関札を使用している一方で、津和野藩亀井氏は、相対的に家格が小さいにもかかわらず、他の大名家に比べて過剰な大きさだった。

これらの事例を通じて、関札の大きさは必ずしも家格に比例していないと言える。家格に基づく予想に反して、同じ家格の大名であっても、関札の大きさには差異が見られることが多い。

4 結論

これまでの関札に関する研究や交通史において、関札の大きさが大名の家格や身分に比例することが通説であったが、本研究を通じて、関札の大きさと家格が必ずしも比例関係にあるわけではないことが明らかになった。

武士社会は主従関係に基づく上下の秩序によって結びつけられており、その結果、身分の区別や序列が極めて厳密に構築されていた(朝尾1992)。具体的には序列によって詰めの間や控えの間(殿席)が決められていたことに加え、参勤交代の際にも随行者数や諸道具類まで厳格に区別された。近世社会全体が身分階層的な性格を持ち、中でも武士社会は特に階層性が際立っていたが、関札においては家格が高い大名であっても、その関札が家格に見合った大きさでない場合があり、逆に家格が低い大名であっても、他の大名に比べて大きめの関札が使用されることがあるという事例が確認された。

これらの事例から、関札の大きさが単純に家格に基づく

ものではなく、また関札のサイズに関しては明確な基準を持って作られるわけでないことが明らかになった。関札の大きさが不統一である理由として、いくつかの要因が考えられる。まず、関札には明確な規格が設けられていなかった可能性が高い。藩ごとに慣習があり、それに基づいて作成されていたため、統一的な基準が形成されなかったのではないかと推測される。加えて、関札の材料の影響も考えられる。材料の大きさや質に制約がある場合、それに合わせて関札のサイズが調整されたのではないだろうか。関札は本陣に掲げる目的があったため、大きさの統一よりも必要な情報が記載できることが優先され、大きさの不統一は特に問題視されなかったと考えられる。

参考文献

- 1969『茨木市史』茨木市
- 朝尾直弘編1992『日本の近世 第7巻 身分と格式』中央公論社 pp.182,187,190-19
- 大垣市2018『墨俣宿本陣関札解説リーフレット』
- 大熊喜邦1947『東海道宿駅と其の本陣の研究』日本資料刊行会 pp.96-97
- 大島延次郎1995『本陣の研究』吉川弘文館 p.93,95
- 笠谷和比古1994『近世武家社会の政治構造』京都大学博士論
- 梶沈2016『関札・掛札についての一考察』『茨木市立文化財資料館館報第2号』茨木市
- 国史大辞典編集委員会1979『国史大辞典 第1巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1980『国史大辞典 第2巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1982『国史大辞典 第3巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1984『国史大辞典 第5巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1986『国史大辞典 第7巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1988『国史大辞典 第9巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1989『国史大辞典 第10巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1990『国史大辞典 第11巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1991『国史大辞典 第12巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1992『国史大辞典 第13巻』吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会1993『国史大辞典 第14巻』吉川弘文館
- 児玉幸多1999『日本史小百科(宿場)』東京堂出版
- 小林恭一編1992『江戸幕藩大名辞典 上巻』原書房
- 小林恭一編1992『江戸幕藩大名辞典 中巻』原書房
- 小林恭一編1992『江戸幕藩大名辞典 下巻』原書房
- 三世善徳2000『東海道における関札設置の諸相』渡辺和敏編『愛知大学総合郷土研究所紀要 第45号』
- 手塚由唯2018『もの』の視点で見る関札—山形県上市市橋下を事例に—
- 松尾美恵子1983『大名の殿席と家格』『徳川林政史研究所 研究紀要 昭五十五年度』徳川黎明会 pp.321-323
- 丸山雍成ほか1997『草津宿本陣田中家歴史資料調査報告書一(宿札編)』草津市文化財調査報告書第30集 草津市教育委員会 pp.1-6
- 丸山雍成2001『封建制下の社会と交通』吉川弘文館 p.173
- 丸山雍成2007『参勤交代』吉川弘文館
- 渡辺和敏1991『近世交通制度の研究』吉川弘文館

表1 檜下宿の関札と大名家の家格

藩名等	月日	表書	家格分析					
			殿席		種別	所領居城	実高	
			席	官位				
弘前藩 津軽氏	3月23日	津軽土佐守	休	柳間	従四位下侍従	外様	城主	10万
弘前藩 津軽氏	3月27日	津軽出羽守	休	柳間	従四位下侍従	外様	城主	10万
弘前藩 津軽氏	4月26日	津軽出羽守	休	柳間	従四位下侍従	外様	城主	10万
弘前藩 津軽氏	4月26日	津軽出羽守	休	柳間	従四位下侍従	外様	城主	10万
弘前藩 津軽氏		津軽土佐守	休	柳間	従四位下侍従	外様	城主	10万
秋田藩 佐竹氏	3月24日	佐竹佐兵衛督	休	大広間	従四位下	外様	国主	20万
秋田藩 佐竹氏	3月26日	佐竹右京大夫	休	大広間	従四位下	外様	国主	20万
秋田藩 佐竹氏	3月27日	佐竹右京大夫	休	大広間	従四位下	外様	国主	20万
秋田藩 佐竹氏	3月27日	佐竹右京大夫	休	大広間	従四位下	外様	国主	20万
秋田藩 佐竹氏	8月10日	秋田少将	休	大広間	従四位下	外様	国主	20万
秋田藩 佐竹氏	9月22日	佐竹右京大夫	休	大広間	従四位下	外様	国主	20万
秋田藩 佐竹氏	9月26日	佐竹右京大夫	泊	大広間	従四位下	外様	国主	20万
秋田藩 佐竹氏	10月9日	佐竹右京大夫	休	大広間	従四位下	外様	国主	20万
亀田藩 岩城氏	4月30日	岩城伊豫守	休	柳間	従五位下	外様	城主格	2万
亀田藩 岩城氏	5月11日	岩城伊豫守	休	柳間	従五位下	外様	城主格	2万
亀田藩 岩城氏	6月8日	岩城伊豫守	休	柳間	従五位下	外様	城主格	2万
亀田藩 岩城氏	8月26日	岩城伊豫守	休	柳間	従五位下	外様	城主格	2万
亀田藩 岩城氏	9月8日	岩城左京亮	休	柳間	従五位下	外様	城主格	2万
本荘藩 六郷氏	3月21日	六郷伊賀守	寓	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	3月23日	六郷伊賀守	寓	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	5月5日	六郷兵庫頭	休	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	5月9日	六郷兵庫頭	休	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	5月25日	六郷阿波守	寓	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	6月12日	六郷兵庫頭	寓	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	6月17日	六郷兵庫頭	休	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	8月22日	六郷阿波守	休	柳間	従五位下	外様	城主	2万
本荘藩 六郷氏	□月25日	六郷兵庫頭	休	柳間	従五位下	外様	城主	2万
鶴岡藩 酒井氏	5月21日	酒井左衛門尉	宿	帝鑑間	従四位下侍従	譜代	城主	17万
鶴岡藩 酒井氏	7月9日	酒井左衛門尉	宿	帝鑑間	従四位下侍従	譜代	城主	17万
鶴岡藩 酒井氏	閏9月24日	酒井左衛門尉	宿	帝鑑間	従四位下侍従	譜代	城主	17万
鶴岡藩 酒井氏	10月8日	酒井左衛門尉	寓	帝鑑間	従四位下侍従	譜代	城主	17万
鶴岡藩 酒井氏	□月21日	酒井左衛門尉	宿	帝鑑間	従四位下侍従	譜代	城主	17万
新庄藩 戸澤氏	3月25日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩 戸澤氏	3月26日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩 戸澤氏	3月27日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩 戸澤氏	3月27日	戸澤上総介	休	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩 戸澤氏	3月28日	戸澤上総介	休	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩 戸澤氏	3月29日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩 戸澤氏	4月21日	戸澤大和守	休	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万

新庄藩	戸澤氏	4月25日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	4月25日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	4月28日	戸澤上総介	休	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	6月19日	戸澤上総介	休	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	6月26日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	6月26日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	8月27日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	8月27日	戸澤上総介	寓	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	9月29日	戸澤上総介	休	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
新庄藩	戸澤氏	□月□日	戸澤上総介	□	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	6.8万
山形藩	堀田氏	6月13日	堀田相模守	休	雁間 (御奏者番)	従五位	譜代	城主	5万
米沢藩	上杉氏	4月4日	上枚民部大輔	休	大広間	従四位下侍従	外様	准国主	15万
米沢藩	上杉氏	4月4日	上枚民部大輔	休	大広間	従四位下侍従	外様	准国主	15万
松山藩	酒井氏		酒井大学頭	休	帝鑑間 (御奏者番)	従五位以下	譜代	城主	2.5万
上山藩 松平(藤井)氏			松平山城守	宿	帝鑑間	従五位下	譜代	城主	3万

表2 墨俣宿の関札と大名の家格

縦 (cm)	横 (cm)	藩名等	月日	表書		年代		家格分析					
								大名	殿席		種別	所領居城	表高
									席	官位			
112	29	鳥取藩 (池田) 松平氏	5月23日	因幡中将	宿	文政9	1826	齊敏	大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万
111.5	28.5	鳥取藩 (池田) 松平氏	□月12日	松平因幡頭	宿				大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万
108	29	広島藩 (浅野) 松平氏	6月28日	安藝少将	休	天保14	1843	齊肅	大広間	従四位上少将	外様	国主	42.6万
108	34.5	和歌山藩 徳川氏	4月6日	紀伊殿	休				大廊下上之部屋	従三位中将	一門 御三家	城主	55.5万
108	30	高知藩 (山内) 松平氏	3月22日	松平土佐守	休				大広間	従四位下侍従	外様	国主	24万
107	34.5	和歌山藩 徳川氏	3月2日	紀伊殿	宿				大廊下上之部屋	従三位中将	一門 御三家	城主	55.5万
107	34	和歌山藩 徳川氏	3月3日	紀伊殿	休				大廊下上之部屋	従三位中将	一門 御三家	城主	55.5万
107	35	和歌山藩 徳川氏	□月□日	紀伊殿	宿				大廊下上之部屋	従三位中将	一門 御三家	城主	55.5万
107	35	和歌山藩 徳川氏	□月□日	紀伊大納言殿	休				大廊下上之部屋	従三位中将	一門 御三家	城主	55.5万
104	29	福井藩 松平(越前)氏	3月12日	越前少将	休	文政11	1828	齊承	大廊下下之部屋	正四位下中将	一門	国主	32万
101.5	29.5	彦根藩 井伊氏	□月3日	彦根中将	宿				溜間	従四位上中将	譜代	城主	35万
101	28.5	福井藩 松平(越前)氏	4月25日	福井少将	休				大廊下下之部屋	正四位下中将	一門	国主	32万
101	29	彦根藩 井伊氏	5月3日	彦根中将	休	文政10	1827	直亮	溜間	従四位上中将	譜代	城主	35万
101	29.5	彦根藩 井伊氏	6月3日	彦根中将	宿				溜間	従四位上中将	譜代	城主	35万

100	27	福井藩 松平(越前)氏	3月25日	越前中将	休				大廊下下之部屋	正四位下中将	一門	国主	32万
100	30	郡山藩 松平(柳沢)氏	10月2日	松平甲斐守	宿	天保15	1844	保興	帝鑑間	従四位下	譜代	城主	15万
99	27	福井藩 松平(越前)氏	3月22日	福井少将	休	天保6	1835	斉善	大廊下下之部屋	正四位下中将	一門	国主	32万
98	31	熊本藩 細川氏		細川越中守	宿				大広間	従四位下少将	外様	国主	54万
97	24	岩国藩 吉川氏	4月3日	吉川監物	宿				柳間	当時官位が無く 陪臣の扱い	外様	陣屋	6万石
96	27	柳河藩 立花氏	7月28日	立花左近将監	宿				大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10.9万
94.5	26	柳河藩 立花氏	□月6日	立花左近将監	宿				大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10.9万
94	23	柏原藩 織田氏	11月9日	織田山城守	宿	文政11	1828	信守	柳間	従五位下	外様	陣屋	2万
94	26.5	柳河藩 立花氏	11月5日	立花左近将監	宿	寛政3	1791	鑑通	大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10.9万
92	25.5	福井藩 松平(越前)氏	□月26日	福井少将	休				大廊下下之部屋	正四位下中将	一門	国主	32万
92	26.5	柳河藩 立花氏		立花伯耆守	宿				大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10.9万
90.5	31	徳島藩 (蜂須賀)松平氏	9月3日	阿波少将	休				大広間	従四位上中将	外様	城主	25.7万
90.5	26.5	丸亀藩 京極氏	5月29日	京極長門守	宿	天保13	1842	高朗	柳間	従五位下	外様	城主	5.1万
90	25	宇和島藩 伊達氏	3月22日	伊達遠江守	宿				大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10万
90	26	宇和島藩 伊達氏	3月28日	伊達遠江守	宿				大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10万
89	29	熊本藩 細川氏	4月16日	細川越中守	宿				大広間	従四位下少将	外様	国主	54万
89	29	熊本藩 細川氏	5月3日	細川越中守	宿				大広間	従四位下少将	外様	国主	54万
88.5	25	小浜藩 酒井氏	8月5日	酒井修理大夫	宿	天保8	1847	忠義	雁間	従四位下侍従	譜代	城主	10.3万
88	29	熊本藩 細川氏	4月朔日	細川越中守	宿				大広間	従四位下少将	外様	国主	54万
88	29.5	熊本藩 細川氏	4月□日	細川越中守	宿				大広間	従四位下少将	外様	国主	54万
87	29	熊本藩 細川氏	3月28日	細川越中守	宿				大広間	従四位下少将	外様	国主	54万
81.5	25.5	熊本藩 細川氏	3月6日	細川越中守	宿				大広間	従四位下少将	外様	国主	54万
78.5	20	佐賀藩 (鍋島)松平氏	3月22日	松平閑叟	宿	文久2	1862	茂実	大広間	従四位下少将	外様	国主	35.7万

表3 郡山宿の関札と大名家の家格

縦 (cm)	横 (cm)	藩名等	月日	表書	年代		家格分析						
					和暦	西暦	大名	殿席		種別	所領 居城	表高	
								席	官位				
164.2	21.5	津和野藩 亀井氏	5月21日	亀井隠岐守	宿	文久1	1861	茲監	柳間	従五位下	外様	城主	4.3万石
115.8	30.7	鳥取新田藩 (池田)松平氏	6月11日	松平壹岐守	宿	天保9	1838	定保	柳間	従五位下	外様	陣屋	2万石
115.8	27.8	小倉藩 小笠原氏	7月3日	小倉侍従	宿	天保8	1837	忠固	帝鑑間	従四位下	譜代	城主	15万石
115.7	29.8	小倉藩 小笠原氏	7月3日	小倉侍従	宿	天保8	1837	忠固	帝鑑間	従四位下	譜代	城主	15万石
112.9	22.8	津和野藩 亀井氏	12月20日	亀井隠岐守	宿	文久2	1862	茲監	柳間	従五位下	外様	城主	4.3万石
112.1	29.3	鳥取藩 (池田)松平氏	2月16日	松平因幡守		天保4	1832	斉訓	大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万石
109.5	27.8	津山藩 松平(越前)氏	3月21日	美作中将	宿	弘化2	1846	斉民	大広間	正四位上	一門	城	10万石
109.5	27.8	津山藩 松平(越前)氏	3月21日	美作中将	宿	弘化2	1846	斉民	大広間	正四位上	一門	城	10万石
107.5	29.7	高知藩 (山内)松平氏	3月16日	松平土佐守	宿	嘉永2	1849	豊信	大広間	従四位下侍従	外様	国主	24万石
106.7	28.3	津山藩 松平(越前)氏	3月21日	津山中将	宿	安政6	1860	慶倫	大広間	正四位上	一門	城	10万石

106.7	28.3	津山藩 松平(越前)氏	3月21日	津山中将	宿	安政6	1860	慶倫	大広間	正四位上	一門	城	10万石
106.3	32.6	岡山藩 (池田)松平氏	3月19日	松平伊予守	宿	天保5	1834	斉敏	大広間	従四位下少将	外様	国主	31.5万石
105.9	29.6	福岡藩 (黒田)松平氏	12月5日	筑州少将	休	万延1	1860	斉博	大広間	従四位下少将	外様	国主	50.2万
105.3	28.5	鹿児島藩 島津氏	3月16日	松平豊後守	宿	天保8	1837	斉興	大広間	従四位上中将	外様	国主	72.9万
105.2	29.1	福岡藩 (黒田)松平氏	10月29日	松平美濃守	宿	弘化4	1847	斉博	大広間	従四位下少将	外様	国主	50.2万
105	29.2	松山藩 板倉氏	5月18日	松平隠岐守	宿	文政5	1822	勝職	雁間 御奏者番	従五位下	譜代	城主	5万石
104.6	28.8	鹿児島藩 島津氏	3月12日	島津三郎	宿	文久3	1863	茂久	大広間	従四位上中将	外様	国主	72.9万
104.5	29	鹿児島藩 島津氏	3月12日	島津三郎	宿	文久3	1863	茂久	大広間	従四位上中将	外様	国主	72.9万
104.2	21.5	津和野藩 亀井氏	5月21日	亀井隠岐守	宿	文久1	1861	茲監	柳間	従五位下	外様	城主	4.3万石
104.2	29	鹿児島藩 島津氏	3月16日	松平豊後守	宿	天保8	1837	斉興	大広間	従四位上中将	外様	国主	72.9万
103.5	26.8	鳥取藩 (池田)松平氏	3月29日	松平長門守		文久3	1863	慶徳	大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万石
103.5	26.8	鳥取藩 (池田)松平氏	4月21日	松平長門守		文久3	1863	慶徳	大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万石
103.2	27	鳥取藩 (池田)松平氏	3月29日	松平長門守		文久3	1863	慶徳	大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万石
103.2	27	鳥取藩 (池田)松平氏	4月21日	松平長門守		文久3	1863	慶徳	大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万石
103	2.1 ママ	津和野藩 亀井氏	7月16日	亀井大隅守	宿	文政8	1825	矩賢	柳間	従五位下	外様	城主	4.3万石
103	28.2	岡山藩 (池田)松平氏	9月7日	備前少将	宿	万延1	1860	慶政	大広間	従四位下少将	外様	国主	31.5万石
102.8	2.7 ママ	広島藩 (浅野)松平氏	9月7日	松平安芸守	宿	享和2	1802	斉賢	大広間	従四位下	外様	国主	42.6万石
102.5	29.1	福岡藩 (黒田)松平氏	10月13日	松平肥前守	宿	天保9	1838	斉博	大広間	従四位下少将	外様	国主	50.2万
102.1	29.1	広島藩 (浅野)松平氏	5月18日	松平安芸守	宿	天保7	1836	斉肃	大広間	従四位下	外様	国主	42.6万石
101.9	26.5	萩藩 毛利(松平)氏	4月4日	松平大膳大夫	休	安永6	1777	重就	大広間	従四位下少将	外様	国主	36.9万石
101.5	26.7	府中藩 宗氏	9月10日	宗対馬守	宿	文政7	1824	義質	大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10万石格
101.5	27.2	府中藩 宗氏	3月8日	宗対馬守	宿	文政13	1830	義質	大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10万石格
101.5	27	府中藩 宗氏	3月8日	宗対馬守	宿	文政13	1830	義質	大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10万石格
101.3	2.6 ママ	府中藩 宗氏	9月10日	宗対馬守	宿	文政7	1824	義質	大広間	従四位下侍従	外様	准国主	10万石格
100.2	26.5	広島藩 (浅野)松平氏	3月19日	松平安芸守	休	天明2	1782	重晟	大広間	従四位下	外様	国主	42.6万石
99.8	26.4	白杵藩 稲葉氏	12月4日	稲葉右京亮	宿	文久3	1863	久通	柳間	従五位下	外様	城主	5万石
99.8	26.4	白杵藩 稲葉氏	12月4日	稲葉右京亮	宿	文久3	1863	久通	柳間	従五位下	外様	城主	5万石
97.4	24.4	津山藩 松平(越前)氏	5月14日	松平越後守	休	安永9	1780	康哉	大広間	侍従	一門	城	10万石
96.9	24.2	岩国藩 吉川氏	1月18日	吉川監物	宿	天保8	1837	経章	柳間	当時官位が無く 陪臣の扱い	外様	陣屋	6万石
94.2	27.3	柳河藩 立花氏	4月2日	立花右近将監	休	天明3	1783	鑑通	大広間	従四位下	外様	准国主	10.9万石
94.2	27.1	姫路藩 酒井氏	4月18日	姫路侍従	宿	嘉永1	1848	忠宝	溜間	従四位下侍従	譜代	城主	15万石
94	27.2	姫路藩 酒井氏	4月18日	姫路侍従	宿	嘉永1	1848	忠宝	溜間	従四位下侍従	譜代	城主	15万石
93.6	24.2	忍藩 阿部氏	6月7日	阿部飛騨守	休	宝暦14	1764	正允	雁間 御奏者番	従五位下	譜代	城主	10万
92.5	21.4	鳥取藩 (池田)松平氏	2月16日	松平因幡守		天保3	1832	斉訓	大広間	従四位上侍従	外様	国主	32万石

92.5	21.4	丸亀藩 京極氏	5月23日	京極佐渡守	宿	文久3	1863	郎徹	柳間	從五位下	外様	城主	5.1万
92.5	24.7	徳山藩 毛利氏	3月6日	毛利甲斐守	宿	文化11	1814	広鎮	柳間	從五位下	外様	城主格	4.5万石
92.4	26	広島藩 (浅野) 松平氏	11月6日	安芸少将	宿	文久2	1862	茂長	大広間	從四位下	外様	国主	42.6万石
92.3	26.5	広島藩 (浅野) 松平氏	6月20日	松平紀伊守	宿	文久2	1862	茂長	大広間	從四位下	外様	国主	42.6万石
92.3	25.7	広島藩 (浅野) 松平氏	3月18日	安芸少将	宿	文久3	1863	茂長	大広間	從四位下	外様	国主	42.6万石
92.3	26.2	広島藩 (浅野) 松平氏	3月18日	安芸少将	宿	文久3	1863	茂長	大広間	從四位下	外様	国主	42.6万石
92.3	26.2	福岡藩 (黒田) 松平氏	10月29日	松平美濃守	宿	嘉永2	1849	斉博	大広間	從四位下少将	外様	国主	50.2万
92	26.2	広島藩 (浅野) 松平氏	6月20日	松平紀伊守	宿	文久2	1862	茂長	大広間	從四位下	外様	国主	42.6万石
92	23.9	明石藩 松平 (越前) 氏	3月14日	松平左兵衛督	宿	享和3	1803	直周	大広間	從四位下侍従	一門	城主	8万石
91.8	22.5	鳥取新田藩 (池田) 松平氏	3月10日	松平杏岐守		天保2	1831	定保	柳間	從五位下	外様	陣屋	2万石
91	26.7	松山藩 板倉氏	10月20日	板倉侍従	宿	慶応1	1865	勝静	雁間 御奏者番	從五位下	譜代	城主	5万石
91	27	浜田藩 松平 (越智) 氏	9月15日	松平右近将監		文久1	1861	武聡	雁間	当時無官四品各	一門	城主	6万石
90.2	20.4	丸亀藩 京極氏	8月15日	京極佐渡守	宿	文久3	1863	郎徹	柳間	從五位下	外様	城主	5.1万
89.2	26.5	岡山藩 (池田) 松平氏	3月19日	松平伊予守	宿	天保5	1834	斉敏	大広間	從四位下少将	外様	国主	31.5万石
87.5	20.5	明石藩 松平 (越前) 氏	4月16日	松平左兵衛督	休	寛政12	1800	直周	大広間	從四位下侍従	一門	城主	8万石
86	23.2	丸亀藩 京極氏	6月10日	京極能登守	宿	寛政4	1794	高中	柳間	從五位下	外様	城主	5.1万
85.5	28.5	福岡藩 (黒田) 松平氏	11月17日	松平肥前守	宿	寛政4	1791	斉隆	大広間	從四位下少将	外様	国主	50.2万
85	24	延岡藩 内藤氏	11月8日	内藤能登守	宿	天保9	1838	政義	帝鑑間	從五位下	譜代	城主	7万石
83.1	19	竜野藩 脇坂氏	5月23日	脇坂淡路守	休	安永3	1774	安親	帝鑑間	從四位下侍従	譜代	城主	5.3万石
82.8	20.8	鳥取新田藩 (池田) 松平氏	5月14日	松平縫殿頭	泊	寛政1	1789	定常	柳間	從五位下	外様	陣屋	2万石
82.6	20.2	赤穂藩 森氏	3月9日	森石兵衛佐	宿	寛政3	1791	忠賛	柳間	從五位下	外様	城	3.3万石
81.4	20.9	高知藩 (山内) 松平氏	5月8日	松平土佐守	宿	文政8	1825	豊資	大広間	從四位下侍従	外様	国主	24万石
81	21.1	高知藩 (山内) 松平氏	5月8日	松平土佐守	宿	文政8	1825	豊資	大広間	從四位下侍従	外様	国主	24万石
72.8	22.3	岡山藩 (池田) 松平氏	9月7日	備前少将	宿	万延1	1860	慶政	大広間	從四位下少将	外様	国主	31.5万石
72.8	22.6	岡山藩 (池田) 松平氏	10月11日	備前少将	宿	慶応2	1866	茂政	大広間	從四位下少将	外様	国主	31.5万石
72.8	22.5	岡山藩 (池田) 松平氏	10月11日	備前少将	宿	慶応2	1866	茂政	大広間	從四位下少将	外様	国主	31.5万石
72.7	22.3	岡山藩 (池田) 松平氏	4月7日	備前少将	宿	安政6	1859	慶政	大広間	從四位下少将	外様	国主	31.5万石